

大会宣言（案）

私たちは戦後70年の節目を迎えようとしている。しかし安倍政権は、戦争法案や労働法制改悪を強行しようとしており、私たちの安心や安全な暮らしは危機に直面している。人々を守るためにあるべき政治は、いまや人々と対立する最も危険なものへと変貌している。

いま多くの人々が、格差と貧困を広げ、生命を疎かにする安倍政権に対して、怒りを覚え、悪法を阻止しようと闘っている。

私たちが求める国政は、民主的な議論の上に立つものである。私たちは平和を求めている。平和な日常生活を求める私たちにとって、安倍政権が強行しようとする戦争法案や労働法制改悪は、人々を不安定な立場に陥れ、日本と世界の平和を破壊するものである。多くの人々に惨禍をもたらし、悲しみをもたらしている戦争の記憶を失ってはならない。

このような時代、このような政府だからこそ、私たち全国ユニオンの果たすべき役割、期待は大きい。私たちは、労働組合のない企業で働く労働者、中小企業で働く労働者、派遣労働をはじめとした不安定な立場で働く労働者など、働く仲間が中心となって時代を切り拓くために、これまでも連帯し、運動を展開してきた。このような実践を続ける私たちだからこそ持ちうる可能性、私たちにしかできない運動があり、それが現在の混沌とした時代の中で、多くの働く人々の希望、社会の希望となることに確信を持つものである。

戦争の傷跡が深かった戦後日本において、とくにこの関西伊丹の地では、労働運動に取り組みながら、地域の人々が必要とする教育・福祉・医療の取り組みを進め、さらに誰もが利用できる制度に高めてきた人々がいた。この運動を担った労働組合が誕生し65年。先人たちはどのような困難に直面しようとも、将来を見据え、決してあきらめることなく闘ってきた。その力は今日まで継承され、「いたみワーカーズコープ」として、本大会において全国ユニオンの仲間となった。

今ここに集う全国ユニオンの仲間とともに、多くの労働組合や人々と連帯し、明るく、楽しく、激しく、さまざまな闘いを展開し、日本社会に希望と勇気を与えてゆこう！

以上、宣言する。

2015年7月15日

全国ユニオン 第14回定期大会